平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270300421		
法人名	有限会社　グループホームふるさとの家		
事業所名	「城下」しまばら	ユニット名	
所在地	長崎県島原市新湊二丁目丙1740－1		
自己評価作成日	平成29年1月7日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3－13－11　サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年2月9日	評価確定日	平成29年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の皆さんやご家族が安心して楽しく生活していただけるよう個々の状態に合わせてお手伝いさせていただいてます。今までの生活歴を全職員が十分に把握し、その方に合った日常生活を送っていただき自由な時間を過ごしていただいています。また面会に来られたご家族が、利用者の皆さんや職員をいつでも気軽な談話ができるよう、家庭的な環境を提供しています。地域資源の活用や、地域との交流も活発に行い夏祭りや子供会の交流など利用者の皆さんが楽しめるよう活動も行っています。

“「城下」しまばら”は開設から14年を迎える。管理者を中心にチームワークも良く、職員同士の助け合いも行われている。人(命)を大切にされる代表等の思いは全職員に伝わり、日々のケアの中で受け継がれている。ご利用者と職員が手を繋いでホーム内を行き来される姿は微笑ましく、ご本人の想いを丁寧に把握するように努めている。ご利用者が重度化される中、食事や入浴、排泄支援などの個別ケアが行われ、ウッドデッキでは愛犬を眺めながら日向ぼっこをされている。毎日の散歩やドライブ、季節の花見を楽しまれ、地域行事に参加されている。四季折々の季節行事も大切にされており、ご利用者と一緒に干し柿や梅干し作り、らっきょう作り、甘酒作りをされたり、山にフキ採りに出かけ、ご利用者も皮むきをして下さっている。ホームの近くに系列の交流センターができ、音楽療法(月2回)や瑞宝太鼓(月2回)を学ぶ機会が増えており、太鼓の響きに感動し、涙を流されたり、次第に発語が増えている方もおられる。今後も「尊厳」を大切にしたケアを深めていく予定である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を全職員が理解共有し、介護の実践につなげている。	「老いても障害を持っても当たり前に自分らしく普通に暮らしたい」と言う理念であり、新人職員研修や2年目研修時に理念の説明や理念の意味の振り返りが行われている。ご利用者個々の趣味の絵画や花植え等をして頂いており、今後も「普通に」と言う意味の共有を深めていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や近隣の学校行事には積極的に参加している。	小学生や中学生の訪問があり、ご利用者も喜ばれている。安中祭りでは婦人会手作りのぜんざいを食べたり、天満宮祭りではﾎｰﾑの前がお旅所であり、巫女さんの踊りを楽しまれている。地域の方が夏祭りや餅つきを手伝って下さり、近所の方にもお餅を配られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験学習などを受け入れ、認知症の人の理解を多くの方に理解していただけるよう機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催しており、利用者の状況や行事を報告、自然災害時の避難に関しても皆さんの意見を聞くことでサービスの向上に活かしている。	地域の方々にﾎｰﾑの取り組みを理解して頂き、色々なご意見を頂いている。災害対策も話し合い、災害に備えて防災頭巾を購入したり、緊急避難時の搬送車の利用者の座席を記入した物を玄関に掲示した。地域情報(精霊船等)も教えて頂き、ｸﾞﾗﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌに参加する事もできた。	今後は更に「今後の地域に必要なもの」等を含めた議題を検討すると共に、議題に応じて地域の方(消防団・派出所の方等)の参加も検討する予定である。地域に密着した行政の方に参加して頂き、ｱﾄﾞﾊﾞｲｽを頂ければと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政担当者も出席されているので連絡事項やいろいろな情報を伝えてもらうことでサービスの向上につなげている。	事務長や管理者等が行政(支所)を訪問している。行政主催の講習会の講師(認知症ｹｱ等)を代表が務めたり、代表は「みんなで良くなっていこう」という思いを大切に、島原市のGH連絡協議会を通して市に要望等を伝えている。運営推進会議で行政の方が総合事業等を説明して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないことを徹底し全職員が周知している。	代表の思いである「肌が弱い方なので、ｹｱの時も職員が手を握るのではなく、利用者から手を握って頂く」「利用者の方を傷つけない、言葉でも傷つけない」と言う事を日々実践されている。感情が不安定な時は散歩にお連れしたり、大好きな犬と触れ合う機会が作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を設置しており虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し勉強することで理解できているが活用されている利用者がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時代表が詳しく説明を行い理解・納得を図っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子や気づきを訪ねるようにしている。	面会時は、ご本人と家族の方が一緒に過ごせるように努めており、家族の方が帰られる時に要望等を伺っている。個別の事情に配慮し、今後の要望等を伺っている。家族の協力も多く、家族からお誘いを頂き、自宅の薔薇の花を見学する事もできた。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で職員の意見や考えを述べる機会を設けている。また毎日の申し送りやミーテイングでも意見を聞いている。	職員全員にアンケートが行われた。今後のホーム運営のアイデアや要望を確認する事ができ、職員旅行を復活する事もできた。各担当者会議（行事、身体拘束廃止委員会等）もあり、職員個々が責任を持って、自分の役割を担っており、職員同士で支え合う関係もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が生活に合う労働条件で雇用してもらえ、資格、職務手当もあり向上心をもって働けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の各種の研修会に参加する機会を設けて下さり、資格取得にも指導をされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろんなスポーツ大会や親睦会など交流の場を作って下さりサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをしっかり図り、家族からの情報も参考にして信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安なことや困っている事など、なんでも話せるような信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とのコミュニケーションをとり、アセスメントを実施しまず必要とされているサービスを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような存在であり、昔ながらのしきたりなど教えてもらい、なんでも話せる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して過ごせるよう家族の意見を十分に聞き、職員も思いを伝えともに一体となって本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問時にはゆっくりと過ごしていただけるよう環境作りに心がけている。	日々の生活の中で、昔ながらの慣わしを教えて頂き、馴染みの山菜採りや野菜の収穫、みかんの収穫も行われている。お墓参りに行かれる方もおられ、馴染みの病院やお祭りの時に知人との再会を楽しまれている。馴染みのお店等にお連れしたり、自宅の薔薇を見に行かれた方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状の度合いもさまざまであり一人一人が孤立されないよう職員が対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや日常の行動の中で本人の希望、意向の把握に努めている。またご家族へも尋ね参考にしている。	毎日の生活の中で職員も横に座り、ゆっくりとご本人の思いを伺っている。思いを把握するために、質問を書いたノートを活用し、筆談も行われている。「家に帰りたい」と願う方もおられ、家族との話し合いを行い、ご本人にとって最適な生活環境の検討を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やコミュニケーションまたはご家族からお話を聞くことで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や健康チェックまた申し送り帳などでその日の体調を把握し無理なく一日穏やかに過ごしていただいている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等で意見を出し合い、ご家族の意見も参考に作成。評価等で前条に即した介護計画を作成している	担当者がｱｾｽﾒﾝﾄし、職員全員で検討している。“できそうな事”や楽しみを把握し、計画作成ｱｾｽﾒﾝﾄ要約表にまとめている。お好きな事、庭の散歩やﾄﾞﾗｲﾌﾞ、歌、ｴﾚｸﾄｰﾝ演奏なども計画に盛り込み、音楽療法や瑞宝太鼓等にも参加されている。	今後は系列のホームと一緒に、アセスメントの書式を検討していきたいと考えている。「できそうな事」「目標」等を増やしていくと共に、リハビリ職との連携方法を検討したり、適切な福祉用具の選定等も行っていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録にその日の様子を記録し、全職員が情報を共有しキーワードに沿ったケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や利用者や家族のニーズに応えられるよう柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いちご狩りや芋掘り、また児童の訪問など地域の方の協力を得て利用者が心豊かに過ごされるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はかかりつけ医にお願いしている。またかかりつけ医がない場合は、施設の協力医にお願いしている	24時間体制で施設長、主治医とﾎｰﾑの看護師（代表）に相談でき、夜中も往診して下さる。往診時に入居者がﾃﾞｯｷでお茶をしていると、「よかねー」「ここに入りたい」等と先生が声をかけて下さる。状態変化時は家族に電話で報告し、定期の受診結果は手紙で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態を把握し看護師に報告、相談を行いアドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や看護師に相談し安心して治療できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し、契約時に説明し同意を得ている。また主治医にもその意向を報告し協力を得ている。	「最期までここで」と希望される方が多く、主治医も24時間体制で協力して下さっている。急変時は看護師（代表）も駆けつけて下さり、職員の安心になっている。職員の観察力も深く、早期対応に繋げている。2年前の終末期ケア時は家族の方もプリン等を持ってきて下さり、職員と一緒に温かいケアをして下さった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも見れるようにしている。また研修等で実践できるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災委員が中心となって、定期的に避難訓練を行っている。	島原市GH連絡協議会で災害時の協定を結んでいる。昼夜想定で自主訓練(年6回)を行い、年2回は消防団・消防署・地域の方と4棟合同の避難訓練をしている。津波や普賢岳噴火、地震、山崩れ等を想定した訓練も行われ、各棟の代表（男性職員）が災害対策を毎月検討し、地域の避難訓練にも参加している。災害に備えて防災頭巾も購入し、災害ﾊﾞｯｸや独自の持ち出し品等も準備し、避難時の車の座席位置も玄関に表示している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重し声掛けに注意しながら行う。	島原の優しい方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さにも注意している。ご本人が優越感に浸られるような対応を心がけ、1人1人に応じた声かけをしている。ご本人が作られた作品を褒めたり、洗濯物を畳んで下さった時も見事な仕上がりで、常に感謝の言葉を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいような雰囲気づくりに努め、表情やしぐさからも見出せるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を最優先に考え、柔軟に対応できるよう気配りをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や髪型等その人らしくできるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、形態を工夫し楽しめるよう支援している	隣接するホームで料理長等が調理している。3食のご飯と朝の味噌汁はホームで作り、ご利用者も食器拭き等をして下さる。干し柿作りや甘酒作りも一緒に行い、山にフキ採りに行き、ご利用者も皮むきをして下さる。今後も役割を増やすための検討を行う予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものを使用し、栄養が偏らないように心がけている。また利用者の力に応じた食事形態で提供し楽しんでくださるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の機能に応じた口腔ケアを支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ表を活用し個々の排泄パターンを把握し誘導している	布の下着を着用し、トイレで自立している方もおられ、個別の誘導で紙パンツから布の下着に変更できた方もおられる。おむつの使用金額を記録し、全職員の意識付けをしており、家族にも排泄表を見て頂いている。排泄後は朝と晩に温かいタオルで清拭している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の活用。乳製品を摂取してもらうよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意見を尊重し無理に行わず、体調・タイミングを見極めながら個々に沿って支援している	入浴好きな方が多く、時間帯や湯温などの希望に応じている。拒まれる時は理由(脱衣が大変等)を把握し、安楽に入浴できるように支援している。湯船に浸かられており、体調に応じて2人介助を行っている。菖蒲湯や柚子湯なども行い、職員との会話を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて居間や居室で過ごしていただき夜間安眠できるよう昼間は活動的に過ごしていただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、全職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの個性に合わせて日々の生活の中に取り入れて毎日を楽しく過ごしていただくよう心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を見極めてドライブや買い物・花見など出かけている	外出は日常で、ﾎｰﾑ周辺の散歩や、愛犬との触れ合いを楽しまれ、季節に応じてﾂﾜ採り等に行かれている。島原でお雛様祭りを楽しまれたり、お弁当を食べながら島原城の花見を楽しまれた。島原外港のｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ見学や地元のお祭りに行かれたり、波佐見の陶器市で湯呑を買われた方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に行っていないが、本人やご家族の希望に応じ買い物支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には常に換気をし季節の花が飾られ庭にもいろいろな花を植え、季節感や生活感を取り入れている	ｸﾘｽﾏｽの時はﾎｰﾑの外にｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝを飾られている。台所とﾘﾋﾞﾝｸﾞ、和室が一体化し、和室にはご利用者個々の椅子が置かれている。ﾘﾋﾞﾝｸﾞの窓から空や山を眺める事ができ、天気等の会話が弾んでいる。ﾃﾞｯｷで日向ぼっこをされたり、愛犬との対話を楽しまれ、廊下にはｴﾚｸﾄｰﾝがあり、ご利用者が弾いて下さっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士が座られる場所の確保や利用者が思い思いに過ごせるようデッキや廊下にもいすを置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていたものを自由に持ち込んでいただき使い慣れたものを活かして心地よく過ごしていただいている	１部屋はﾄｲﾚが設置されている。ﾘﾋﾞﾝｸﾞで過ごされる方が多く、昼間はﾍﾞｯﾄﾞの布団を畳み、お昼寝の時に再度布団を敷かれている。ﾀﾝｽや座ｲｽ、置時計、ﾗｼﾞｶｾ等を持ち込まれ、遺影等に手を合わせる方もおられる。家族の面会時に一緒に写真を撮り、部屋に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリーも行いトイレ等には大きな字で書いて表示し自立した生活が送れるようにしている		